

グローバル人材の育成と「高大連携」

林 秀毅

(一橋大学国際公共政策大学院客員教授・EUSI 主任研究員)

EUSI(EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムとして、EUに関する教育・研究・広報を行う拠点である。

そこでは本来、教育面の対象は大学生と大学院生である。しかし、EUSI が支援を受けている駐日欧州連合代表部は、より若い高校生の世代から、EUについてより理解を深めてほしいという意向を強めている。

そこでEUSIでは2013年度から、高校を訪問しEUの意義と活動内容を紹介する取り組みを開始した。

特にEUSIでは「二つの差別化」を意識してこの高校訪問プロジェクトを立ち上げた。第一に、駐日欧州連合代表部自身が、毎年5月の「日・EUフレンドシップウィーク」におけるプログラムの一部として実施している出張授業「EUがあなたの学校にやってくる」がある。駐日EU代表部によれば、これは在日EU加盟国大使館と同代表部の大使および外交官が、全国各地の高等学校でEUや自国についての講演を行うもので、7年目となる2013年は約90校、のべ4万9千人の生徒が参加した。

このように本プロジェクトは、多数の生徒を対象にEUに関する基礎的な理解を深めることを目的としている。第二に、神戸大学を中心としたコンソーシアムであるEUIJ 関西が、先行して行ってきた高校訪問プロジェクトがある。

これは関西地区の主要高校を訪問し、一学校毎に個別のテーマを講演するものであるが、やはり比較的多数の生徒を対象にしていた。

EUSIでは以上の先行例に学びつつ、これとは異なる形でプロジェクトを進めた。即ち、各学校内の希望者から構成された20名から40名程度という比較的少数のグループを対象に、通訳なしの英語のみで、政治・経済・社会の各分野で比較的突っ込んだ内容の議論を行い、且つ双方向の質疑応答を重視するというものである。このような進め方が可能となった条件として、第一にEUSIが首都圏に位置し、生徒がEUに関心を持ち英語力の水準も高い学校があること、第二にEUSIが政治・経済など社会科学の分野に特化し深めるという特長を生かし、その研究成果を、高校生向けの教育にも活用したことが挙げられる。

具体的な進め方としては、先ず駐日欧州連合代表部の広報担当官にご協力頂き、EU統合の歴史的・社会的な成立過程などを幅広く語って頂く。次に、EUSIから、ユーロ危機の原因や解決策、各国の政治・経済への影響などを説明する。

以上の内容を基に、生徒との質疑応答の時間を約30分から1時間程度実施する。以上を全て、通訳なしの英語のみで実施する。当初は説明が理解され、質問が十分に出るかどうかが心配だったが、実際には多くの質問が続き、予定の時間を延長することもしばしばだった。

次に、実際に訪問した学校は、大きく三つの特徴を持ったグループに分けて考えることができる。

第一に、学校が国際交流に高い問題意識を持ち、従来からアジアの他高校と国際交流活動を行うなどしている私立・国立の高校である。こうしたケースでは、生徒も国際分野に高い関心を持ち、直接海外の大学に進学す

るような例もまれではない。

昨年度、EUSI 初の訪問先となった麻布高校及び筑波大附属駒場高校、さらに筑波大附属高校などが挙げられる。

第二に、公立高校の中でこれまでの伝統と実績に加え、さらに国際化を自校の特色として打ち出そうとしているケースである。生徒の側にも、幅広い教養を身に着けるために学習しようという前向きな姿勢が感じられる。

今年度、EUSI が初の都立校として訪問した日比谷高校は、その象徴ともいえる。

第三に、比較的歴史が新しく、帰国子女枠などを活用し、国際化を進めようとしている私立校がある。今年度訪問した市川学園、渋谷教育学園渋谷などが挙げられる。

以上の三つのグループに共通していることは、まず、校長・副校長先生などのトップが率先して国際化を推進していること、次に、社会科・英語などの教員の方々が国際交流活動に積極的であり、今回の訪問についても、事前の勉強会を実施するなど、周到な準備を進められてきたことにある。

最後に、以上のようなプロジェクトを行うことは、それぞれの担当者にとってどのような意味を持っているだろうか。

まず大学にとっては、大学の研究成果を活用し、将来の大学生となる高校生が幅広く知識を学び、留学などを含む高い目標意識を持たせようという意図がある。このような「高大連携」は今後もさまざまな形で深まっていくだろう。

同時にこのことは、社会に出ても各分野で広がるグローバル化に対応できる人材を養成することにつながる。

次に高校にとっては、在校生に対し、国内だけでなく広く世界に視野を広げる狙いがある。さらに現在、政策面でも高校のグローバル化が推進されようとしている。

しかし最も大切なことは、以上のような機会を通じ、高校生の一人一人が、大学の専攻、さらにその先にある社会が広く世界につながっていることを知り、それに希望を持つようになることだろう。

(参考記事)

- (1) EUSI メールマガジン Vol.34「EU 発『チューニング』の世界的広がり」と日本への示唆・インパクト」(松塚ゆかり)
<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol23.pdf>
- (2) 麻布学園で EU セミナーを実施(2013 年度)
http://eusi.jp/content_jp/outreach/report-outreach/20121109_eu_seminar.html
- (3) 筑波大附属駒場高校で EU セミナーを実施(2013 年度)
http://eusi.jp/content_jp/outreach/report-outreach/20121211_tsukukoma.html
- (4) 筑波大附属高校で EU セミナーを実施(2014 年度)
http://eusi.jp/content_jp/outreach/report-outreach/tsukuba20131108.html
- (5) 都立日比谷高校で EU セミナーを実施(2014 年度)
http://eusi.jp/content_jp/outreach/report-outreach/%e9%83%bd%e7%ab%8b%e6%97%a5%e6%af%94%e8%b0%b7%e9%ab%98%e6%a0%a1%e3%81%a7%e3%82%bb%e3%83%9f%e3%83%8a%e3%83%bc%e3%82%92%e5%ae%9f%e6%96%bd.html
http://eusi.jp/content_jp/wp-content/uploads/2014/02/14a0759f87d73d55a4f22d4a7e3afae.pdf